

記載例

① 伐採後の造林の計画が人工造林の場合

(別添 2-1)

造林計画書

造林の権原を有する者 住所  
(土地所有者) 氏名

1 伐採後の造林の計画

主伐に係る伐採面積と一致しており、適正。

(1) 造林の方法別の造林面積等の計画

造林面積 (A + B + C + D)	2.00 ha
人工造林による面積 (A + B)	2.00 ha
植栽による面積 (A)	2.00 ha
人工播種による面積 (B)	ha
天然更新による面積 (C + D)	ha
ぼう芽更新による面積 (C)	ha
天然更新補助作業の有無	地表処理・刈出し・植込み・ その他 ( )・なし
天然下種更新による面積 (D)	ha
天然更新補助作業の有無	地表処理・刈出し・植込み・ その他 ( )・なし

(2) 造林の方法別の造林の計画

	造林の期間	造林樹種	樹種別の 造林面積	樹種別の 植栽本数	作業 委託先	鳥獣害 対策
人工造林 (植栽・人工播種)	令和5年4月1日 ～ 令和5年5月31日	ヒノキ	2.00ha	5,000本	△△森林組合	幼齢木保護具の設置
天然更新 (ぼう芽更新・ 天然下種更新)						
5年後において 適確な更新が なされない場合						

伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して2年以内となっているため、適正。

(3) 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途

2 備考

## 注意事項

- 1 造林面積欄には、伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合を除き、主伐に係る伐採面積と一致するよう記載すること。
- 2 植栽による面積欄には、市町村森林整備計画において
  - ・植栽によらなければ適確な更新が困難な森林 又は
  - ・木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林のうち特に効率的な施業が可能な森林の区域内にあつて、植栽による更新を行う森林として定められているものの伐採跡地の面積を下回らないよう記載すること。
- 3 造林樹種欄、樹種別の造林面積欄及び樹種別の植栽本数欄には、複数の樹種を造林する場合には、造林する樹種ごとに複数の行に分けて記載すること。
- 4 5年後において適確な更新がなされない場合欄には、造林の方法を天然更新による場合（伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合であつて、伐採の終了した日から5年後において当該用途に供されていないときを含む。）における造林の期間、造林樹種、樹種別の造林面積、樹種別の植栽本数及び鳥獣害対策を記載すること。
- 5 鳥獣害対策欄には、防護柵の設置、幼齢木保護具の設置などの方法を記載すること。
- 6 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途欄には、伐採後5年以内において当該伐採跡地が森林以外の用途に供されることとなる場合にのみ記載すること。
- 7 造林箇所が複数地番ある場合は、別添 2-2 を添付すること。

(別添 2-2)

造林計画内訳書

番号	土地の所在場所				造林面積 (ha)	樹種	造林方法
	町	大字	字	地番			
1	△△	〇〇	△△	1234-1	1.00ha	スギ	人工造林
2	△△	〇〇	△△	1234-2	1.00ha	スギ	人工造林
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
計					2.00ha		

造林をしない場合は、造林無しと記載すること。

伐採及び伐採後の造林の届出書に記載した全ての地番を記載しているか。

造林計画書の面積と一致しているか。

※地番毎の造林面積、樹種、造林方法を記載すること。

※造林の有無に関わらず伐採及び伐採後の造林の届出書に記載した全ての地番を記載すること。

※必要に応じて行を追加すること。

記載例

② 伐採後の造林の計画が天然更新の場合

(別添 2-1)

造林計画書

造林の権原を有する者 住所  
(土地所有者) 氏名

1 伐採後の造林の計画

主伐に係る伐採面積と一致しており、適正。

(1) 造林の方法別の造林面積等の計画

造林面積 (A + B + C + D)	2.00 ha
人工造林による面積 (A + B)	- ha
植栽による面積 (A)	- ha
人工播種による面積 (B)	- ha
天然更新による面積 (C + D)	2.00 ha
ぼう芽更新による面積 (C)	- ha
天然更新補助作業の有無	地表処理・刈出し・植込み・ その他 ( ) <b>なし</b>
天然下種更新による面積 (D)	2.00 ha
天然更新補助作業の有無	<b>地表処理</b> ・刈出し・植込み・ その他 ( ) ・なし

伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して5年を超えない期間となっているため、適正。

(2) 造林の方法別の造林の計画

	造林の期間	造林樹種	樹種別の造林面積	樹種別の植栽本数	作業委託先	鳥獣害対策
人工造林 (植栽・人工播種)						
天然更新 (ぼう芽更新・天然下種更新)	令和5年4月1日 ～ 令和10年3月31日	その他広葉樹	2.00ha			
5年後において 適確な更新が なされない場合	令和10年4月1日 ～ 令和12年3月31日	その他広葉樹	2.00ha	6,000本		

天然更新すべき立木の本数に面積を乗じて得た本数を記載する。  
(例) 3,000本/ha × 2.00ha = 6,000本  
5年後において適確な更新が完了していない場合は、当該本数に  
足らざる本数を植栽することとなる。

伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して7年を超えない期間となっており、かつ植栽が計画されているため、適正。

外の用途に供されることとなる場合のその用途

5年後の天然更新の完了の見込みに関係なく天然更新を計画する全面積を記載する。

2 備考

## 注意事項

- 1 造林面積欄には、伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合を除き、主伐に係る伐採面積と一致するよう記載すること。
- 2 植栽による面積欄には、市町村森林整備計画において
  - ・植栽によらなければ適確な更新が困難な森林 又は
  - ・木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林のうち特に効率的な施業が可能な森林の区域内にあつて、植栽による更新を行う森林として定められているものの伐採跡地の面積を下回らないよう記載すること。
- 3 造林樹種欄、樹種別の造林面積欄及び樹種別の植栽本数欄には、複数の樹種を造林する場合には、造林する樹種ごとに複数の行に分けて記載すること。
- 4 5年後において適確な更新がなされない場合欄には、造林の方法を天然更新による場合（伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合であつて、伐採の終了した日から5年後において当該用途に供されていないときを含む。）における造林の期間、造林樹種、樹種別の造林面積、樹種別の植栽本数及び鳥獣害対策を記載すること。
- 5 鳥獣害対策欄には、防護柵の設置、幼齢木保護具の設置などの方法を記載すること。
- 6 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途欄には、伐採後5年以内において当該伐採跡地が森林以外の用途に供されることとなる場合にのみ記載すること。
- 7 造林箇所が複数地番ある場合は、別添 2-2 を添付すること。

(別添 2-2)

造林計画内訳書

番号	土地の所在場所				造林面積 (ha)	樹種	造林方法
	町	大字	字	地番			
1	△△	〇〇	△△	1234-1	1.00ha	その他広葉樹	天然更新
2	△△	〇〇	△△	1234-2	1.00ha	その他広葉樹	天然更新
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
計					2.00ha		

造林をしない場合は、造林無しと記載すること。

伐採及び伐採後の造林の届出書に記載した全ての地番を記載しているか。

造林計画書の面積と一致しているか。

※地番毎の造林面積、樹種、造林方法を記載すること。

※造林の有無に関わらず伐採及び伐採後の造林の届出書に記載した全ての地番を記載すること。

※必要に応じて行を追加すること。